

手練

S H U R E N

第 15 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会



表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目次

■ 檜皮採取者(原皮師)養成研修

第18期生 修了式 並びに 第19期生 開講式 2

● 来賓祝辞 文化庁文化資源活用課 修理指導部門 文化財調査官 黒坂 貴裕

奈良県地域振興部 文化財保存課 課長補佐 馬場 宏道

大阪府教育庁 文化財保護課 副主査 神谷 悠実

● 激励の言葉 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 課長 中川 慶太

● 修了生謝辞 檜皮採取者(原皮師)養成研修 第18期生 井上 裕貴

■ 文化財屋根葺土養成研修 第23期生 後期研修 始まる 7

■ 平成31年度 文化財研修会 9

■ 檜皮採取者養成研修 第19期生 及び

平成31年度 檜皮採取中級研修 始まる 10

■ 文化財屋根葺土養成研修 第23期生 後期研修 終了 11

■ 平成31年度 檜皮採取技術査定会 13

■ 主任文化財屋根葺土 検定会 実施される 14

■ 平成31年度 茅葺中級研修 15

■ 平成31年度 茅葺きフォーラム 開催 17

■ 平成31年度 屋根板製作者養成研修を初めて実施 19

■ 平成31年度 檜皮採取者(原皮師)初級養成研修 18期生 終わる 20

■ 平成31年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる

平成31年度 檜皮採取者(原皮師)特A研修 実施 21

■ 準会員 名簿 22

■ あとがき

檜皮採取者(原皮師)養成研修 第18期生 修了式 並びに 第19期生 開講式

期日 ■ 平成31年4月17日(水)

会場 ■ 京都市文化財建造物保存技術研修センター

檜皮採取者(原皮師)養成研修第18期生の修了式、並びに檜皮採取者(原皮師)養成研修第19期生の開講式を執り行いました。

今年も御来賓、関係各位の御臨席のもと、研修生たちは皆緊張した面持ちで式に臨みました。研修を修了した4名も新たに研修に励む4名も気を引き締めて一人前の職人を目指し、努力を重ねてください。ご指導をいただきました、関係各位、講師の先生方には心より御礼申し上げます。

[檜皮採取者(原皮師)養成研修 第18期生]

- 西谷 将太 / (株)河村社寺工殿社
- 井上 裕貴 / 谷上社寺工業(株)
- 井関 善晴 / (株)友井社寺
- 益満 響 / (株)村上社寺工芸社



[檜皮採取者(原皮師)養成研修 第19期生]

- 下原 幸樹 / 田中社寺(株)
- 中根 悠太 / 田中社寺(株)
- 磯部 孝樹 / (有)宮川屋根工業
- 松下 太洸 / (有)ひわだや



京都市文化財建造物保存技術研修センター前にて

来賓祝辞

文化庁文化資源活用課
修理指導部門

文化財調査官 黒坂 貴裕



全国社寺等屋根工事技術保存会の檜皮採取者(原皮師)養成研修了式・開講式の開催にあたり、ひと言お祝いとお挨拶を申し上げます。

まず、元号が平成から令和にかわることとなり、新時代の幕開けとなるわけです。ここ最近では選定保存技術認定団体でも、代表者の代替わりが何件もありました。そんな中で感じるのは、後継者育成事業を中心とした選定保存技術認定団体の取り組みが、「当たり前にあるもの」、「毎年こなしていくもの」に、なっているのではないかということです。

全ての保存団体は、保存会を結成し、後継者育成研修の事業を始めてから、およそ10年ほどの実績を積んだのちに選定保存技術の団体として認定されています。つまり、その認定前の10年は補助金もなしに、どんな研修をすべきか、金銭的な負担をどのように減らすか考えながら、工夫と熱意で研修を続け、そのあかつきに認定されています。

団体によっては、まだその頃を知る役員がいたりしますが、今後ますます代替わりが進むと、そのような初心を知らない世代が増えてくるものと思われれます。ですから、保存会の運営や研修が惰性で行われることがないように注意して頂きたい。つまり、伝統技術の継承だけでなく、熱意や志といった初心も伝えてほしいと思います。

そのような初心を忘れずにいれば、当然、問題意識も出てくるわけで、その解決のためにはどうしたら良いか、その時、相談する相手として文化庁や近畿圏の行政、全国国宝重要文化財所有者連盟などの関係団体がいるわけです。後継者育成の効果がでているならでている、継続すべきだとか。もっとやるべき事があるので、支援があれば実現できるとか。保存会も、声を上げるためにあるとも言えるのです。

次に、今年4月15日に、フランスでノートルダム大聖堂が火災に遭いました。世界遺産でもあり、日本では、昭和24年の法隆寺金堂火災に匹敵するようなショックといえるでしょう。実は、ともに修理中の火災という共通点がありますので、我々文化財修理関係者はあらためて身を引き締めなければなりません。火災で言えば材料採取の現場も含まれますし、重機による搬入での接触や、解体範囲の誤認など、文化財を守る人間が文化財を失わせることがないように、常日頃の現場作業に

注意して下さいますようお願いいたします。

最後に、文化庁は「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」として、これをユネスコ無形文化遺産に提案するための申請書を提出いたしました。この伝統建築工匠の技は、建造物に関わる選定保存技術14件、その認定団体13団体で構成され、全国社寺等屋根工事技術保存会と檜皮採取の技術も含まれています。

無形文化遺産は、長い年月を超えてこれからも伝承されていく必要があります。したがって、伝統建築工匠の技も、技術伝承が確保されていることが必要なので、この檜皮採取者養成研修など、後継者育成の取り組みこそが、無形文化遺産としての核なのです。

かつては、それぞれの親方の下の徒弟制度という縦の繋がりによって伝承されてきた技術ですが、戦後の高度経済成長期以降の社会変化の中では、その伝承システムで後継者を得ることが無理になってきたわけです。そこで、横の繋がりでも危機を乗り越えて技術を伝承しようというのが、選定保存技術認定団体なのです。そして、伝統技術継承のために、この仕事を志す若者を集め、伝統技術による仕事も増やそうという取り組みの一環、という意味合いも、ユネスコ無形文化遺産を目指す取り組みにはあるのです。

それでは、新時代の幕開けとともに、全国社寺等屋根工事技術保存会の取り組みが一層発展することと、檜皮採取者養成研修の安全を祈念して、本日のお祝いとお挨拶に代えさせていただきます。本日はおめでとうございます。

来賓祝辞

奈良県地域振興部
文化財保存課
課長補佐 馬場 宏道



本日は檜皮採取者養成研修第18期生の皆様、研修修了まことにおめでとうございます。日頃の仕事をしながらの長期間の研修で、たいへんご苦勞されたことと思います。また、檜皮採取者養成研修第19期生の皆様、これより長い研修となる訳ですが、健康に留意して大きな成果を挙げられますよう、お祈りいたします。

私は奈良県で文化財保護に携わっております。本県では今年より文化財保存課は教育委員会を離れ、知事部局地域振興部所管となりましたが、これまでと何ら変わらずお付き合い頂きたいと思っております。

さて近年、私たちの労働環境は大きく変化してきています。安全管理、労働時間も変化し、これまでと同じ作業で同じ成果を上げる事が難しくなっています。しかし一方、修理の現場では見学会を行う事がありますが、多くの方が見学に来られ、伝統的な技術がますます注目されている事を実感しています。

もとより誰にでも出来る仕事ではない事に加え、限られた条件で仕事をする上で、一人一人の責任がますます大きくなっているのではないかと思います。

皆様にはお体に気をつけて、これからも精進していただきますようお願いいたします。

以上簡単ではございますが、研修生の皆さんの今後の活躍に期待するとともに、保存会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございました。

来賓祝辞

大阪府教育庁
文化財保護課
副主査 神谷 悠実



本日は檜皮採取者(原皮師)養成研修の修了式及び開講式が、このように盛大に行われますこと、まことにありがとうございます。心からお慶び申し上げます。

また保存会の皆様方におかれましては、日ごろから大変お世話になっておりますこと、この場を借りて厚くお礼申し上げます。特に大阪は、昨年9月に発生した台風21号で多くの文化財が被害に遭いました。保存会の方々には、すぐさま現場に駆けつけていただくとともに、適切な修理をしていただき、不安な気持ちが解消されてとても助かったわ、と数多くの所有者様から伺っております。本当にありがとうございました。

さて、本日は4名の研修生が修了されるということで、改めてお祝い申し上げます。

皆様が習得に励んでこられた檜皮採取の技術は、まさに、「守り、引き継がれてきた」、素晴らしい技だと存じます。大阪府内には「ふるさと文化財の森」に設定されている檜皮の境内林がございますので、以前原皮師さんの技を間近で拝見させていただいたことがあります。わずかな道具とロープのみで木に登り、檜皮を軽やかに美しく剥いていくさまは、本当にかっこいい姿だなと、強く印象に残っております。

皆様におかれましては、これから本格的に仕事に携わっていくことになるかと存じますが、日本が誇る、美しくとてもかっこいい職業、という自負を持って、日々の修練と努力を忘れず、長くこの伝統的な技を守り、引き継いでいっていただければと存じます。

また、これから研修に入られる4名の皆さまにおかれましては、実技や座学を通して、諸先輩方や講師の先生方から多くのことを学ばれると存じます。この研修を通じて、先輩方の技をひとつでも多く吸収し、さらに成長されますことを、切に願っております。その際、事故や体調には特に留意していただき、実り多き研修となるよう頑張ってください。

以上簡単ではございますが、皆様が、これから大いにご活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は、まことにありがとうございます。

激励の言葉

京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化財保護課
課長 中川 慶太



本日は、檜皮採取者(原皮師)養成研修の開講式がこのように盛大に執り行われますことを心からお慶び申し上げます。また、日頃は村上会長をはじめ、公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会におかれましては、文化財の修理事業や伝統文化の技術継承に御尽力いただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本日、檜皮採取者(原皮師)養成研修第19期生として、下原幸樹さん、中根悠太さん、磯部孝樹さん、松下太洗さんの4名の皆様を新入生としてお迎えできましたこと、まことに喜ばしく思います。皆様には、長期間にわたる研修になりますが、体を大切に、怪我なく頑張ってくださいますようお願いいたします。また、先ほど修了生代表として井上さんが「この研修で、他の会社のやり方を見ることができた」とおっしゃっていたとおり、研修を通じてこれまで知らなかったやり方や、横の繋がりを持つことが、この研修の大きな意味かと思えます。ぜひとも、これからの研修を一生の財産としていただきますようお願いいたします。

さて、昨年は文化財保護法の改正もあり、京都市におきましても、文化財保護審議会において「これからの文化財保護の在り方について」をご審議いただき、そのなかで、ここ京都市文化財建造物保存技術研修センターにおける、全国社寺等屋根工事技術保存会の工夫を重ねつつ、長く継続されてきた取組が、文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術の継承や後継者育成につながる成果として評価いただきました。しかしながら、その一方で、今後に向けた課題としても、保存技術の保持者の育成や文化財修理に必要な原材料の確保が必要であるとされました。これは、現状に満足することなく、全国社寺等屋根工事技術保存会の取組や皆様の御経験を活かした取組を推進すべきであるという強いメッセージであるともいえます。

すこし話はそれますが、昨年は、6月に大阪府北部を震源とする地震、7月には豪雨が続き、8月に台風20号、そして9月に台風21号という、大変災害が多い年だったと思います。京都市内の文化財にも多くの被害がありました。被害の復旧が急がれるなか、保存技術や原材料がなければ、実際には修理が進まないと実感しました。まさに、更なる取組が必要だと感じた次第です。そういった意味でも、皆様は、文化の結晶ともいえる文化財の維

持継承に、文字通り欠くことのできない存在となる一步を踏み出されたと思います。

京都市では、今年度と来年度の2年間で「文化財保存活用地域計画」を策定する予定で、取組をスタートさせております。現場で学ぶ皆様のことを肌を感じつつ、さきに述べました審議会からのメッセージをしっかりと受け止め、また、文化庁において進めていただいております、今年3月に新たに京都市内の日向大神宮境内林が選定されました「ふるさと文化財の森」の取組との連携の模索なども含め、保存技術の保持者の育成や文化財修理に必要な原材料の確保という課題に向き合い、全国のモデルとなれるような計画を目指したく考えております。

結びにあたりまして、研修生の皆様が文化財の保存技術者として研鑽に励んでいただき、将来の文化財の守り手として御活躍いただきますこと、並びに、本日御出席いただいております皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、簡単ではございますが激励の言葉とさせていただきます。

修了生謝辞



檜皮採取者(原皮師)養成研修
第18期生 井上 裕貴

この1年間を振り返ると、最初は、他の会社の檜皮を剥く技術を見ることができるのだとわくわくしていました。ずっと自分の会社の技術しか知らなかったからです。ヘラの入れ方を下に向けて滑らせて剥くやり方だったり、幅を決めてから斜めに滑らせて剥くやり方だったり、実際に真似をして試してみました。

他には、ロープのくくり方や木の上り方に違いがあったので、どちらがいいのか迷い、試してもみましたが、やはり慣れているやり方のまますることにしました。

皮の落とし方が違うと、指導員に注意されました。もっていく方向に切った皮のかぶ側を向けて落としていたのですが、斜面側の方向に切った皮のかぶ側を向けて落とすように言われたので、直しました。

現場で苦勞した山は三重県の民有林で、斜面が急でロープを使って登らないと現場に辿り着けないところでした。剥いた皮を下ろすのに、片手でロープを持ち、もう片方手で皮を持って滑らせて下ろすため一苦勞でした。この1年間に指導員の方々に教わった技術や仕事

のやり方を次の中級研修と会社の仕事で活かしたいと思っています。

最後に指導員の方々にはお世話になりました。会社の支援もあり、無事に修了できたことを深く感謝しています。ありがとうございました。



感謝状贈呈

長年にわたる 功績をたたえて



後藤 佐雅夫 様

当会は研修事業等において、後藤佐雅夫様に長年にわたるご指導、ご高配を賜ってまいりました。この度、4月17日開催の修了・開講式後に、これまで当会の発展に貢献いただきましたご功勞に対し、敬意と謝意を表して感謝状と記念品をお贈りいたしました。

後藤佐雅夫様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



文化財屋根葺士養成研修 第23期生 後期研修 始まる

第23期後期研修が本年5月7日より始まりました。9月中旬までのおよそ5か月間、研修を実施してまいります。前期研修では座学等の講義を幅広く取り入れた研修となりましたが、後期研修では、より実践的な力を身に付けるため、屋根模型を用いた葺実習や各保存修理現場を活用した現場研修を行い、研修後半には当会賛助会員の志波彦神社鹽竈神社様において、これまでの集大成となる「卒業現場実習」を実施します。

また、建築史演習や製図実習、保存修理現場における解体保存法などの研修も併せて実施し、研修生においては、最終年度となる後期研修の中でしっかりと取り組み、屋根葺士として必要な知識と技術を身に付けてもらいたいと思います。

最後に研修を実施するにあたりご指導をいただく関係各位にはご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



専門工法の座学



檜皮の結束実習



鉤についての研修



屋根模型の葺実習



修理現場での研修



修理現場での研修



現場実習



平成31年度 文化財研修会

日時 ● 令和元年6月14日(金) 13:00~17:00

会場 ● 清水寺 圓通殿及び本堂
(京都市東山区清水1丁目294)

概要説明 ● 京都府文化財保護課 島田 豊

事例報告 ● (有)宮川屋根工業 西村 信生

今年度の研修会は、国宝 清水寺本堂の修復工事が行われている清水寺で開催致しました。当日は、127名の参加があり、圓通殿にて京都府文化財保護課の島田豊様から工事概要や今回の保存修理で分かったことなどの説明をお聞きし、その後、国宝 清水寺本堂保存修理工事の現場責任者である(有)宮川屋根工業の西村信生準会員による事例報告が行われました。複雑な屋根形状をも

つ清水寺本堂の施工写真を見ながら説明を聞き、その後質疑応答となりました。

この檜皮葺の屋根は規模もさることながら、職人にとっては各所に悩まされる箇所が多くあり、工事に直接携わっていない者も皆一様に熱心に聞き入っていました。この後、先ほどの説明を踏まえて、各人が本堂の仮設に上がり、その複雑な屋根に見入るほどでした。このような情報を共有することは、屋根葺師個々の知識や見聞を広げ、今後の文化財修復に於いて非常に意義のあるものになると感じました。

最後になりましたが、今回の文化財研修会に多大な御協力をいただきました清水寺様、京都府文化財保護課の島田様をはじめ関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。



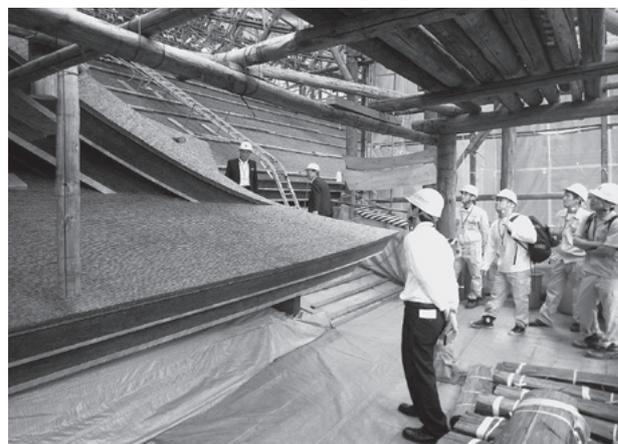
清水寺 圓通殿の大広間



事例報告を熱心に聞く参加者



複雑な屋根形状をもつ清水寺本堂



仮設足場の上で見て学ぶ参加者

檜皮採取者養成研修 第19期生 及び 平成31年度 檜皮採取中級研修 始まる

平成31年度の檜皮採取者初級養成研修が、8月20日から23日の文化財建造物保存技術研修センターでの講義を皮切りに始まりしました。内容は文化財保護法、原材料採取法、原材料性質と種類、労働安全衛生法等です。

初級研修



実技研修は、8月26日より河内長野市有林においてスタートし、指導員から檜皮の採取法、木を傷めない籠の使い方、荷造り、山の歩き方等を教わり、檜皮採取者としての一歩を踏み出しました。檜皮茸にとって、檜皮採取はとても重要な仕事です。今後は技術の研鑽とともに、技術の継承、資質の向上を目指し研修に取り組んでいただきたいと思います。

平成31年度の檜皮採取中級研修も8月26日からの宮島国有林より始まりました。今年度は25名にて2月7日を最終日とし、全国の国有林等で14クール(1クール4～6名)の採取研修をしていきます。また、技術力の高い中級者には、初級研修生の指導にもあたってもらいます。

国有林をはじめ山林保有者の方々、研修関係者の方々には今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

中級研修



文化財屋根葺士養成研修 第23期生 後期研修 終了

去る9月18日をもって後期研修を終了し、第23期文化財屋根葺士養成研修のすべての課程を終了いたしました。後期研修では卒業現場実習に向けた材料整形をはじめ、模型や実際の保存修理現場での葺き実習、座学では実測及び製図、建築史演習では滋賀県と京都市内の各所を講師の方の指導の下、2日間にわたり実施しました。

8月下旬からは研修の集大成となる卒業現場実習を志波彦神社鹽竈神社様のご協力を得て実施し、平葺のみならず役所も担当させていただき、2年間にわたる研修の成果を十分に発揮することができました。

昨年の4月から始まった今期の研修ですが、当初は頼りなさも感じた研修生の皆さんも、研修が進むにつれて、たくましくなっていました。先日、公開セミナーで技術の実演をしていただきましたが、すっかり職人の顔に

なって、堂々と実演されている姿を目の当たりにし、研修で学んだことが少しずつ身になってきているのかなと感じます。

研修が終了したとはいえ、これで終わりではありません。ここはあくまで通過点であり、屋根葺士として生きていくためのスタートラインに立ったにすぎません。驕ることなく常に謙虚に技術と向き合っていってほしいと心から願います。

前期研修も含め、第23期の養成研修事業にお力添えをいただいた講師の方々、指導員の皆さん、そして行政をはじめとした関係機関の皆様方に、紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。今後ともご指導のほど、よろしくお願い致します。



建築史演習

座学



製図



実測



建築史演習

現場実習



平葺



棟軒切り

卒業現場実習



平葺



志波彦神社 鹽竈神社 御文庫



役所 (隅葺)



役所 (軒走り先)

平成31年度 檜皮採取技術査定会

期 間 ● 令和元年9月26日(木)・27日(金)
会 場 ● 日羽八幡神社(岡山県総社市日羽661)

檜皮採取技術査定会は、檜皮採取研修生の日頃の研修成果を査定するとともに、技術の継承と向上を目的として毎年行っております。

当日は、日羽八幡神社総代様をはじめ、文化庁文化資源活用課(修理指導部門)調査官 黒坂貴裕様、保存会会長及び理事、派遣事業所会員、事務局も参加し総勢37名で行いました。査定を受ける研修生は初級4名を含む11名の参加で、査定員は指導員2名と指導補助員3名の合計5名で行いました。黒坂様は、若い研修生達の檜皮採取作業や査定員に

よる査定を視察されていました。

研修生は日頃の成果を存分に発揮し、採取作業にあたりました。1日目の午後から作業に入り、2日目の正午に査定会は終了しました。査定員の採点を元に、日頃の研修の年間実績考課値を加味して担当役員が技術ランクを決定、後日派遣事業所に通知いたします。今後も採取研修に真摯に取り組んでくれることを期待します。

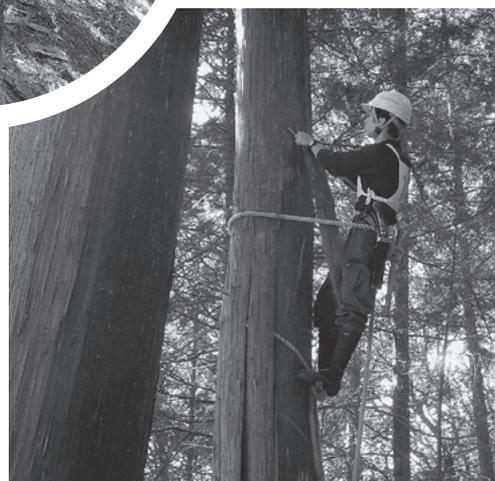
最後に、この度査定会の開催にご協力いただきました日羽八幡神社の皆様にご心より感謝申し上げます。



慎重に皮を剥ぐ研修生



査定員が見つめる緊張のなか、真剣に取り組む研修生



振り縄とへらを使い皮を剥きあげる



剥いだ皮を集め結束する



査定を終えて、黒坂様の総評に耳を傾ける研修生達

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・柿葺【第19回】● 令和元年10月14日(月)～10月19日(土) / 1名(檜皮葺師)

茅 葺【第11回】● 令和元年10月14日(月)～10月19日(土) / 1名

[会場●山南ふるさと文化財の森センター]

今年度の受検者は檜皮葺1名、茅葺1名の2名で実施いたしました。5日間という限られた時間の中で、試行錯誤を繰り返しながら、目の前の模型と真剣に向き合う姿が見られました。最終日には、OFFICE 萬瑠夢の村田信夫先生をはじめ、文化財保護の担当者の皆様とともに当会正会員も加わって査定を実施しました。実技検定と講義、筆記試験の各試験項目を受け、今回受検者は2名とも合格しました。



檜皮・茅葺実技検定

平成19年から始まった主任文化財屋根葺士検定ですが、経験年数10年以上の準会員のほとんどが受検し、認定を受けています。今後2～3年は該当者がいない状況となりますが、当会としては今後もこのような検定会や研修会を通じて技術研鑽と資質の向上に努めてまいりたいと思っております。

最後に本検定にご協力を頂きました皆様に紙面を借りて御礼申し上げます。



査定の様子

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

去る11月15日(金)、京都府文化財保護課から鶴岡典慶建造物担当課長をお招きし、認定証の更新講習会を開催いたしました。認定日から3年毎に実施される講習会ですが、今年度の講習会にも多くの更新者が参加され、鶴岡様の講義に熱心に耳を傾けておりました。文化財修理の基本的な考え方、修理工事の実際について講義や発表をいただき、近年問題になっている柿葺屋根の早期劣化の状況や、解体時に出現した前回工事での問題点を先生の方からも問題提起していただきました。

認定証保持者に求められるのは、現場をしっかりとおさめていくための努力はもちろん、こういった問題に対

[会場●京都市文化財建造物保存技術研修センター]

して的確に回答していくことのできる資質が求められているように感じます。保存会としても更なる資質向上のため、講習会や研修会を通じ、よりレベルの高い技術者を養成していきたいと思っております。



平成31年度 茅葺中級研修

今年度の茅葺中級研修では、11月11日より埼玉県秩父市寺尾萩平の諏訪神社にて小麦藁葺替、1月20日より静岡県伊東市の大室山にて茅刈、また2月3日より茅としては初めてとなる事業所での葺替を行いました。

諏訪神社では当保存会の隅田隆藏正会員、山田雅史正会員が指導にあたり、研修生は宮城、茨城、京都と全国より集まり、全国的にも珍しい小麦藁での葺替研修となりました。この少ない機会に隅田氏の技術を学ぶことができ、非常に有益な研修となりました。

茅刈研修では池総有財産管理会の御厚意により、区域内の茅刈を実施することができました。大室山では毎年

「山焼き」が行われ、今も茅場の姿を残していて、茅を有効活用するべくご協力いただきました。

また、2月3日より現場研修として京都府南丹市美山町原において、山城萱葺(株)の現場内で葺替の研修を行いました。研修生は京都、滋賀と関西からのみの参加となりましたが、茅葺においては近い地域でもそれぞれ特色があることを実感でき、興味深い研修となりました。

それぞれの開催にあたり、ご協力いただきました地区の方々、行政の方々、諸先生方、関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

諏訪神社での小麦藁葺替



コテの縄巻きを隅田氏より教わる



平葺編み付けの指導



下地の垂木縛り



葺替を終えた諏訪神社

大室山での茅刈



刈り込みの様子



束の縛り方を講習



見本の束を講師より指導



干した茅の束ね直し

美山町での葺替



化粧茅の編み付けを指導



平葺押鉾の本締め



隅部の茅を整える



編み付けの様子

平成31年度 茅葺きフォーラム 開催

期 日 ● 令和元年11月21日(木)・22日(金)
会 場 ● 諏訪神社(埼玉県秩父市寺尾1012)
秩父地域地場産業振興センター
(埼玉県秩父市宮側町1-7)



平成31年度中級技術研修の期間中に、現場見学及び協議会を開催いたしました。今回は日本でも数少ない、小麦藁葺屋根の葺替研修でした。選定保存技術保持者の隅田隆蔵氏と山田雅史氏指導のもとでめったにない葺替に関わることができ、本当に有意義だったと思います。協議会では、文化庁はじめ、秩父市長、秩父市教育委員会教育長、地元関係者の皆様、全国から茅葺職人が集まり、活発な議論ができたと思います。

特に今回は全国で起こっている、原因不明の屋根の傷みについて、どうしておこるのか討論しました。環境の変化(温暖化、酸性雨)はもちろん、暮らしの変化(火を

使わない暮らし)も関係があると考えられ、キノコなど菌類の影響等、何とか理由はつけられるかもしれませんが、本当のところはわかりません。ただ確実に言えることは、今の時代、技術交流は今回のような研修もあり盛んに行われ切磋琢磨しています。技術面では進歩していると思っております。それなのにこれほど耐久年数が悪くなってきたのは、自然環境の観点からも早急に考えなければならないときにきていると感じました。茅葺は世界を救う。心からそう思います。

本年もこのような考える機会をいただき、関係者の皆様に心より、感謝申し上げます。

見学会 「諏訪神社」

現場説明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 山田 雅史

協議会 「秩父地域地場産業振興センター」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 村上 英明

来賓挨拶 ● 文化庁 文化資源活用課 修理企画部門 文部科学技官 村上 玲奈
秩父市長 久喜 邦康

講 義 ● 筑波大学 名誉教授 安藤 邦廣 (一般社団法人 日本茅葺き文化協会 代表理事)

講 演 ● 筑波大学 名誉教授 安藤 邦廣 (一般社団法人 日本茅葺き文化協会 代表理事)
題目「真葺きと逆葺き -古代日本の茅葺きを周辺諸国とあわせて考える-」

討 論 会 ● 議題「茅葺き屋根の現状、材料と環境の課題について」
[進行] 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 中野 誠

総 評 ● 文化庁 文化資源活用課 修理企画部門 文部科学技官 村上 玲奈

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 大野 浩二

見学会



修理現場見学



現場見学・質疑応答

協議会



来賓挨拶 村上 玲奈様



来賓挨拶 久喜 邦康様



講義・講演 安藤 邦廣様



討論会風景



討論会風景



討論会風景

平成31年度 屋根板製作者養成研修を初めて実施

屋根板製作選定保存技術の保存団体として平成30年9月25日に認定を受けたことを契機に、今年度より屋根板製作者養成研修事業を開始しました。期間は11月25日(月)～12月6日(金)の12日間。研修生4名を対象に実施し、指導には選定保存技術保持者の栗山光博氏があたりました。杉材を用いて主に平板1.0尺×1.0分の製作工程を実習し、原木の見分け方、材の取り方、木取り方法の基本など一つ一つの工程を実際に見せながら指導し、研修生も熱心に聞き入っておりました。最初のうちは慣れない作業に戸惑いも見られましたが、工程を

何回も繰り返すうちに理解度も高まってきたようで、最終日が近くなる頃には形になっていました。文化財建造物を適切に保存していくためには良質な資材の確保は欠かせません。研修生には、こういった研修を通じ、資材確保から屋根葺工事までを一連の流れとして理解し、我々の技術が森林資源に支えられていることを胸に刻んでいただきたいと願います。来年度以降も研修は続きます。保存団体として求められる役割は多岐に渡りますが、一歩一歩着実に進めていくためにも多くの皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



実習に取り組む研修生

平成31年度

檜皮採取者(原皮師) 初級養成研修18期生 終わる

平成31年度の檜皮採取者初級養成研修は、8月20日から23日の京都市文化財建造物保存技術研修センターにおいての座学研修を皮切りに、8月26日より河内長野市有林、京都市日向大神宮、那岐山国有林、秩父市有林、九州大学演習林にて荒皮の実技研修を行いました。また、9月26日、27日に岡山県の日羽八幡神社での檜皮採取技術査定会にも参加し、中級研修生とともに黒皮採取による査定を受けました。2月7日に全10クール6か月

に及ぶ研修を終了しました。

長期間にわたる研修の中で、指導員の指導のもと、初めて行う作業に得るものが多かったと思います。この研修を、原皮師としてのスタートラインにし、なお一層の精進を心から願います。

研修林をご提供くださった国有林管理署の皆様、山林所有者の皆様には感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力をお願い致します。



平成31年度 檜皮採取者(原皮師) 中級研修 終わる

平成31年度の檜皮採取中級研修は、8月26日の宮島国有林から始まり、岡山県の両山寺、賤母国有林、三上山国有林、地獄谷国有林、京都市有林、別所国有林、城山国有林にて全14クルールの研修を行い、2月7日に終了しました。

1クール2週間で入山し、限られた時間の中での作業

になります。いつもは一緒に仕事をしない中級研修生たちですが、研修中は切磋琢磨し、より良い研修になっていると思います。

研修林をご提供くださった国有林管理署の皆様、山林所有者の皆様、各森林の関係者の皆様に感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力をお願い致します。



平成31年度 檜皮採取者(原皮師) 特A研修 実施

平成31年度の檜皮採取特A研修を2月10日から15日までの期間、平岡八幡宮境内林にて大野浩二指導員と研修生2名にて行いました。中級研修とは別に、大径木のある森で行う研修は、特A研修生に特化したものになります。(※特A：中級研修生の中でも特に技術力がある者=Aランク付けされた者が3年以上その技術査定の考

課値を維持した者) 今後も対象となる檜林において実施していきたいと思えます。

昨年に続き研修林をご提供くださった平岡八幡宮の宮司様に感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力をお願い致します。



■ 準会員

No.	氏名	職種
1	青木 胤 勲	檜皮採取
2	青木 照 幸	檜皮葺
3	青山 亨	檜皮葺・柿葺
4	赤嶺 尚 耶	茅 葺
5	赤嶺 怜	茅 葺
6	朝野 達 也	檜皮葺・柿葺
7	芦田 健 太	檜皮葺・柿葺
8	蘆田 祐 明	檜皮葺・柿葺
9	足立 健 一	檜皮葺・柿葺
10	安部 悟 司	柿 葺 屋根板製作
11	飯野 映 稚	檜皮葺・柿葺
12	池田 陽 輔	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
13	井阪 智	茅 葺
14	石井 潤	檜皮葺・柿葺
15	石井 規 雄	茅 葺・事務
16	石川 良 三	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
17	石塚 健 一	竹釘製作
18	井関 善 晴	檜皮葺・柿葺
19	磯部 孝 樹	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
20	市原 健	檜皮葺・柿葺
21	一色 律 男	檜皮葺・柿葺
22	伊藤 貴 弘	檜皮葺・柿葺
23	伊藤 延 行	檜皮葺・柿葺
24	伊藤 元 輝	檜皮採取
25	伊東 洋 平	茅 葺
26	糸賀 一 道	檜皮採取
27	井上 裕 貴	檜皮採取
28	居原田 浩 樹	檜皮葺・柿葺
29	入江 匠	檜皮葺・柿葺
30	岩崎 正	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
31	上野 英 樹	茅 葺
32	大崎 悠	茅 葺
33	大西 康 純	茅 葺
34	大野 沙 織	茅 葺
35	大野 隼 矢	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
36	岡 祐 紀	茅 葺
37	緒方 伸 也	檜皮葺
38	岡野 史 和	檜皮葺・柿葺
39	岡本 葉 澄	檜皮葺・柿葺
40	奥田 治 郎	檜皮葺・柿葺
41	奥田 正 博	檜皮・柿葺
42	尾崎 良 助	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
43	小澤 翔 太	檜皮採取
44	方山 和 也	檜皮葺・柿葺
45	勝部 哲 也	檜皮葺・柿葺
46	加藤 貴 規	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
47	金谷 史 男	茅 葺
48	包國 眞 匠	檜皮葺・柿葺
49	金子 英 生	檜皮葺・柿葺
50	上出 健	檜皮採取

No.	氏名	職種
51	亀井 輝 彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
52	嘉本 洋 士	檜皮葺・柿葺
53	川田 徳 宏	檜皮葺・柿葺
54	河野 修 二郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
55	菊池 保	茅 葺
56	岸田 智 太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
57	岸田 直 彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
58	吉川 圭 一	檜皮葺・柿葺
59	吉川 晋 二	柿 葺 屋根板製作
60	木戸 智 裕	屋根板製作
61	木下 和 也	檜皮葺
62	木下 眞 介	檜皮葺・柿葺
63	木村 健 太	檜皮葺・柿葺
64	清田 幸 臣	檜皮葺・柿葺
65	栗山 光 博	屋根板製作
66	栗山 雄 二	屋根板製作
67	栗山 芳 博	屋根板製作
68	小池 一 平	檜皮葺・柿葺
69	古川 一 敏	茅 葺
70	児島 眞 介	檜皮葺・柿葺
71	児玉 典 史	茅 葺
72	後藤 哲 夫	檜皮採取
73	小西 康 介	檜皮葺・柿葺
74	小西 繁 信	檜皮葺・柿葺
75	小林 正 之	茅 葺
76	小原 一 樹	檜皮葺・柿葺
77	駒 宏 樹	茅 葺
78	近藤 竜 太	檜皮採取
79	酒井 慶 伍	茅 葺
80	寒河江 清 人	檜皮葺・柿葺
81	佐々木 綾 子	檜皮葺
82	佐々木 孝 則	茅 葺
83	澤田 昌 己	檜皮葺・柿葺
84	塩田 隆 司	檜皮葺・柿葺
85	品川 琉 心	檜皮葺・柿葺
86	下原 幸 樹	檜皮葺・柿葺
87	須賀 均	檜皮採取
88	須賀 将 志	檜皮葺・柿葺
89	杉井 喜 雄	檜皮葺・柿葺
90	杉谷 功	檜皮葺・柿葺
91	高木 諒	屋根板製作
92	大下 倉 優	茅 葺
93	高島 優 雅	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
94	高平 勝 也	檜皮葺・柿葺
95	竹嶋 大 貴	茅 葺
96	竹森 暢 哉	檜皮葺・柿葺
97	武山 貞 秋	茅 葺
98	立木 覚 士	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
99	田中 順 也	茅 葺
100	田中 慎 一	檜皮葺

No.	氏名	職 種
101	田中 智紗衣	管 理
102	田 原 一 生	檜皮葺・柿葺
103	寺田 美乃里	檜皮葺・柿葺
104	戸 梶 憲 幸	檜皮葺・柿葺
105	時 長 祐 貴	檜皮葺・柿葺
106	富 田 啓 介	茅 葺
107	永 瀬 慶 祐	檜皮葺・柿葺
108	中 根 悠 太	檜皮葺・柿葺
109	長 野 直 人	茅 葺
110	永 原 光 敬	檜皮葺・柿葺
111	中 村 裕 司	檜皮葺・柿葺
112	中 森 千 尋	茅 葺
113	西 裕 之	檜皮葺・柿葺
114	西 谷 将 太	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
115	西 堀 大 樹	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
116	西 村 聡 央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
117	西 村 信 生	檜皮葺・柿葺
118	沼 澤 修 一	檜皮葺・柿葺
119	野 谷 嘉 邦	檜皮葺・柿葺
120	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅 葺
121	橋本 浩太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
122	林 直 希	檜皮採取
123	東 友 一	檜皮葺・柿葺
124	檜 篤 広	檜皮葺・柿葺
125	平 田 将 大	檜皮葺・柿葺
126	平野 健太郎	檜皮葺・柿葺
127	平野 裕 也	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
128	廣 内 翔	檜皮葺・柿葺
129	深 本 英 昭	檜皮葺・柿葺
130	福 岡 亮 太	檜皮採取
131	藤 中 竜 也	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
132	藤 原 諒	檜皮葺・柿葺
133	渊 上 大 輔	檜皮葺・柿葺
134	古 川 友 喜	檜皮葺・柿葺
135	細 見 和 希	檜皮葺・柿葺
136	細 見 知 憲	檜皮葺・柿葺
137	細 見 裕	檜皮葺・柿葺
138	堀 内 博 樹	檜皮葺・柿葺
139	堀 江 栄 行	屋根板製作
140	堀 尾 誠 那	屋根板製作
141	本 多 亮 貴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
142	毎 熊 徳 満	檜皮葺
143	楨 原 孝 宜	檜皮葺・柿葺
144	益 満 響	檜皮採取
145	松 下 太 洸	檜皮葺
146	松 島 俊 一	屋根板製作
147	松 田 哲 也	檜皮葺・柿葺
148	松 村 省 弥	檜皮葺・柿葺
149	松 村 純 孝	檜皮葺・柿葺
150	松 村 有 記	檜皮葺・柿葺

No.	氏名	職 種
151	三 上 昭 信	茅 葺
152	三 上 直	茅 葺
153	道 繁 康	檜皮葺・柿葺
154	三ツ出 俊平	檜皮葺・柿葺
155	緑 川 幹 雄	檜皮葺・柿葺
156	峰 地 幹 太	檜皮葺・柿葺
157	宮 西 寛	檜皮葺
158	向 田 学	檜皮葺・柿葺
159	村 岡 伸 康	檜皮採取
160	村 上 章 浩	檜皮葺・柿葺
161	村 上 貢 章	檜皮葺・柿葺
162	森 壯 馬	檜皮葺
163	森 山 淳 希	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
164	矢 野 友 則	檜皮葺・柿葺
165	山 口 成 貴	檜皮葺・柿葺
166	山 口 宗 平	檜皮葺・柿葺
167	山 崎 堅 登	檜皮葺・柿葺
168	山 田 勇 生	檜皮葺・柿葺
169	湯 田 詔 奎	茅 葺
170	湯野 尚一郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
171	吉 川 一 生	茅 葺
172	吉 竹 秀 紀	檜皮採取
173	余 宮 祥 平	茅 葺
174	和 田 琢 男	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
175	渡 辺 昌 弘	茅 葺
176	渡 部 雄 太	檜皮葺・柿葺

(2019.4.1現在)

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

手
練

第 15 号

令和 2 年度 掲載

あ と が き

長雨が続いたせいなのか、猛暑だったせいなのか、蝉の鳴き声に異変を感じました。まさかコロナウイルスに命の危険を感じ身を潜めていたわけではないでしょう。ただ、街中ではそんなわずかな鳴き声もすでに聞かれなくなり、秋はそこまでやってきているようです。皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染拡大で思うような日常に戻れず、辛い日々をお過ごしのことと思います。一日も早い終息とご健康を心より願っております。

当会においても、活動の中止や縮小を余儀なくされています。この困難をなんとか乗り越えようと試行錯誤を続けていますが、今後も皆様に何かとご迷惑をお掛けすることがあるかと思えます。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

手練

S H U R E N

第 15 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会